



シンボルマーク

シルバー おやべ

第 39 号
平成28年 1 月10日

公益社団法人
小矢部市シルバー人材センター
〒932-0826
小矢部市茄子島211番地
TEL (0766) 67-4804
FAX (0766) 67-5515



賀正
丙申元旦



世界文化遺産 国宝 姫路城 (平成27年11月5日 会員研修会にて)

「賀正」書：会員 五郎丸 尚 三 (松沢)



青春するシルバー会員の輪を大きく

理事長 東 勲

あけましておめでとうございます。皆様には、お健やかに平成二十八年の新春をお迎えのことお慶び申し上げます。

会員の皆さんには、今年も健康で元気にお互いの青春をおう歌されるよう願っています。

当センターをご利用いただいている皆様、日頃、ご愛顧を賜り厚くお礼を申し上げます。今年も皆様の事業が益々ご隆盛であることをご祈念申し上げます。引き続き、当センターをご指導、ご支援下さるようお願い申し上げます。

最近の県内景気は、一部に弱さがみられるが、穏やかな回復基調が続いているとされております。特に雇用は、全国有効求人倍率一・二四倍(九月)の中、本県は一・五〇倍と高い水準で、わけても小矢部は、三・〇五倍となっています。

先行については、雇用環境の改善、原油価格の下落、北陸新幹線開業効果の継続などを背景に緩やかに回復していくものと期待されています。

先の雇用状況下にあつて、一部企業の中には六十五歳を過ぎても、元気な方には七十歳まで

就業してもらいたいとの動きも出ております。シルバー人材センターにおいても会員数が伸び悩んでおります。市内には、六十五歳を過ぎても、ほとんどの方は健康で元気な方です。

年を重ねただけで人は老いるのではなく、熱を持った貴人にシルバー会員になっていただきたいのです。働く意欲を持った貴人に、貴人が長年培った知恵や技を出し惜しみしないで地域の方へ、周りの方へ受け渡していただきたいのです。そして、他の会員と一緒にいたい、あなた自身の青春を大いにおう歌していただきたいのです。

これからも、シルバー会員の活動が市民に愛され、地域から喜ばれる魅力ある小矢部市シルバー人材センターづくりに取り組んでまいります。



謹賀新年

本年もよろしく
お願い申し上げます



理事長 東 勲

副理事長 村上 保 英

専務理事 澤田 菊 信

理事 舟本 勇

五反田 範 子

高西 久 文

中村 利 夫

鳩沢 修 一

前 清 一

松本 彦 次

松本 靖 臣

山田 富 雄

葭田 光 子

福田 秋 美

監事 松本 俊 夫

先進地視察について

平成27年11月6日、東理事長以下45名は、兵庫県篠山市の公益社団法人篠山市シルバー人材センター（以下、篠山市S C）への視察を行いました。

研修場所の篠山市民センター多目的ホールでは、最初に小矢部市S Cの東理事長から市の紹介を、その後澤田事務局長が小矢部市S Cの現状等について説明をした後、篠山市S Cの貝阿彌チエ子副理事長の挨拶があり、同S Cの上野正事務局長から、篠山市の概要及び篠山市S C事業内容の説明がありました。

篠山市は、文化庁が創設した地域の歴史的魅力や特色を通し、地域の活性化を図る「日本遺産」に平成27年4月、認定をうけたもので、内容としては丹波篠山地域に江戸時代から続く「デカンショ節」をその

時代ごとに風土や名所、名産品などを歌詞に盛り込み歌い継がれ、現在も新たな歌詞を生み出し続け、現在まで300番を超えるそうです。

篠山市S Cでは安全就業への取り組みが著しく高く、平成26年度は傷害無事故が700日あまりに及んでおり、会員並びに役職員の安全意識の高さに感心しました。そして最近の主な就業では特産の黒豆の収穫作業やしめ縄づくりなどを行っているとのことでした。

また、会員の技術向上、会員の安全及び健康を考慮した、数多くの研修会・講習会を開催しており篠山市S Cの会員の活力や事務局の取り組みは大変参考となりました。



「おやべシルバー人材フェスタ2015」普及啓発活動

シルバー人材センター普及啓発活動の一環として、昨年10月4日クロスランドで「おやべ元気フェスティバル」に参加させて頂き、当シルバーは、パネル展示、チラシ等を配布して会員募集、受注のPRを行いました。シルバー人材センターの活動が、意外にも私達が

思っているよりも浸透していません。今後益々、私達一人一人が、いろんな機会をとらえてPR活動を行っていかねばならないと痛感しました。

広報委員 松本 彦次



高齢者活用・現役世代雇用サポート事業 アンケート結果報告

今回のアンケートには市内27社の事業所にご協力をいただいたものです。アンケート先については過去、現在にシルバー人材センターに依頼をいただいた事業所を対象といたしました。アンケートの目的としては、今後少子高齢化の進行に伴い、労働力の大幅な減少が見込まれる中、高齢者の活躍の場の創出を目的としたものです。以下についてアンケート結果をご報告いたします。

シルバー人材センターについて (該当する項目に○をつけて下さい)

1. 仕事の依頼について	①すでに依頼している 27社	②過去に依頼	③検討中	④依頼なし
	①を選ばれた方に ・現在の業務のみ継続 23社 ・新たな分野の業務を検討 2社 ・回答なし 2社	②・③・④を選ばれた方に なし		
2. 仕事を依頼された理由 (①を選ばれた方に)	①臨時的短期的な仕事だから 10社	②仕事が丁寧だから 4社	③シルバーから勧められて 4社	④新聞チラシ等で知って 0社
	⑤民間より安価だから 1社	⑥知人より勧められて 2社	⑦その他 6社	
3. シルバー人材センターに 依頼するにあたり何が必 要と思われますか	①継続的、長期的な仕事 17社	②技能的な仕事 2社	③安価な料金体制 6社	④広報活動の充実による周知 0社
	⑤その他 4社	(複数回答)		

(アンケート結果)

シルバー人材センターへの依頼において、現在の業務の継続や臨時的、短期的な仕事とされた事業所が最も多くなっています。また今後、依頼するのに必要と思われたこととしては、継続的、長期的な仕事が最も多く、次に安価な料金体系となっております。

以上の結果から、小矢部市シルバー人材センターとしては就業先の事業所様に対し、今回のアンケート結果をふまえ、今後とも信頼関係を重視しながら誠意を持って対応してまいりたいと考えております。

シルバー派遣事業について (該当する項目に○をつけて下さい)

1. シルバー派遣事業につ いてご存知ですか	①知っている 21社	②知らない 3社	③無回答 3社
	①を選ばれた方に何で知りましたか ・シルバー就業开拓員から 6社 ・会員、パンフレット、他事業者から 9社 ・その他 4社 ・無回答 2社	②を選ばれた方 ・事業の説明を希望する 1社 ・説明は不要 2社	
2. シルバー派遣事業の受け 入れについて	①すでに受け入れ済み 24社	②受け入れしていない 2社	③検討中 1社
	②・③で今後の考え方 ・受け入れを考える 0社 ・検討したい 2社 ・受け入れはむずかしい 1社		

(アンケート結果)

シルバー派遣事業については、27社のうち21社の事業所が知っていると答えられました。また、24社が受け入れ済みと回答をいただきましたが、現在のところ派遣事業として10社、31名の会員が受け入れをいただいております。このことからシルバー派遣事業(派遣先の指揮命令を受ける就業)について十分理解がされていないものと思われます。

なお、「検討したい」と回答いただいた2社を含め、シルバー人材センターとしては、シルバー派遣事業についてさらに理解が得られるよう努めてまいりたいと考えております。

新入会員の

シルバーの会員となって

若林地区 高橋 順子

シルバー人材センターに入れていただきまして二年目です。最初は二く二いろいろなお仕事をさせていただきました。現在は、大谷博物館で説明員をさせていただいています。

大谷さんと言えば、小矢部市庁舎・大谷小学校・大谷中学校を寄付で建てていただいた方というイメージでしたが、こちらに勤務させていただきいろいろな資料を読んでいくうちに、なんとスケールの大きい心の広い偉大な方なのかと頭の下がる思いでした。

皆さん方は重々ご承知かと思いますが、裸一貫からたたき上げ、莫大な資産を地域のためお国のためと力の限りつぎ込まれました。当時の岸信介総理大臣は『東京卸売センター』『ホテル・ニューオオタニ』と日本経済に残した足跡は大きい。彼の生んだ事業は永遠に残さなければならぬ。』と書いていらつしやいます。

来館下さった方には、簡単に説明をさせていただいていますが、「よくわかって楽しかった。」「今度は、友達と来ます。」など言っていたたくとほつとします。しかし時には、大先輩方がいらつしやると緊張して思っていることの半分も言えないこともありつます。もつと勉強して、皆さんに分かりやすく説明出来るようにしなくては…と反省しきりです。

また、会員さんに昨年の夏、客間の障子戸の貼り替えをお願いいたしました。「丁寧、迅速、美しい」とプロのお仕事ぶりを見せていただき、部屋も明るく見違えるようになりました。有難うございました。

このほか、趣味の会や講習会などもあり、楽しく参加させていただいています。

これからも健康に心がけ、迷惑をかけないように頑張りたいと思つています。

どうぞよろしくお願ひいたします。



働ける！働きたい！高齢者の方へ

シルバー会員になりませんか？



会員になるには…

- 原則60歳以上で、健康で働く意欲のある方。
- 入会説明会を受け、シルバー人材センターの趣旨に賛同いただける方。
- 所定の入会申込み書類を提出いただいた方。
- 所定の会費を納入された方。

会員募集中
小矢部市にお住まいの六十歳以上で、健康で働く意欲のある方、皆様のご近所やお知り合いの方に、ぜひ声かけをお願いします。

入会説明・相談会は

毎月第2・第4月曜日に14時00分から16時00分まで
小矢部市シルバー人材センターにて行っています。
(祝日等の場合は中止)

※詳しくは、小矢部市シルバー人材センターへお尋ねください。





(ボランティア活動)



去る10月14日、小矢部市鷺島地内において、会員及び役員を含めて約100名が参加し、ラジオ体操で体をほぐした後、クロスランドおやべパターゴルフ場及び小矢部市農村環境改善センター敷地内の除草等を行いました。好天の下、参加者達は会員同士で無事に作業を終えました。

(交通安全講習会等)



また、ボランティア活動に先立って開催された交通安全講習会では、小矢部警察署交通課長の加藤雅彦様より、今年度の富山県内の交通事故状況について、高齢者の被害が多いとの説明があり、冬期間や夜間における交通安全上の留意点や反射材の有効性について説明を受けました。また、近年、被害が増えている特殊詐欺について、被害に遭わない為の留意点等の説明を受けました。

(会員のつどい)



ボランティア活動の後、小矢部市農村環境改善センターで会員のつどいが開かれ、和室では、会員達がおにぎりや豚汁等に舌鼓をうちながら、交流を深め、有意義な一日となりました。また、会員が持ち寄った遊休品のチャリティーバザーも催され、その売り上げは、昨年に続いて、東日本大震災で被災した福島県内のシルバー人材センターへ義損金として送られました。

チャリティー募金の報告

10月14日に開催された「会員のつどい」におきまして、会員が遊休品を持ち寄って販売するチャリティーバザーを実施いたしました。この収益金37,030円を福島県シルバー人材センター連合会を通じて福島県内の被災地域のシルバー人材センターに寄付させていただきました。ご協力いただいた会員の皆様方に、厚くお礼申し上げます。

《公社》小矢部市シルバー人材センター会員一同 謹啓
 義援金の御礼
 この度、度重なる当センターへの事業運営資金として、多大なるご寄付を賜り、会員一同感謝を申し上げます。
 当センターは福島県浜通りを中心に位置し、気候が温暖で風光明媚な地域です。
 双葉郡南部の4町村から構成された広域人材センターとして当時は、会員数が340名で事業規模も1億円程度の小規模な団体でありました。
 東日本大震災と原子力発電所事故により町ごと避難区域となり、現在も多くは会員が県内外に避難、事業活動も休止の状態でありましたが、一部の町村が帰還され住民活動に取り組みられていますが、帰郷率が(20~30%)と低く、いまだに多くの住民が避難を余儀なくされ、地域の絆も薄れつつあります。
 こうな中、当センターも帰還可能な区域に事業所を立ち上げる等して、会員や町民に呼び掛ける等をしなが、組織の再生に向けて、地域の復旧・復興に取り組みで励みますので、今後ともお力添えをお願いいたします。
 貴人材センターのますますのご発展と皆様のご繁栄を心より、お祈り申し上げます。
 平成27年11月2日
 社団法人南双シルバー人材センター
 理事長 末永 九

謹啓
 献金のお礼 益々御清音のこととお喜び申し上げます。
 本県のシルバー事業につきましては、いつもありがたい御支援を賜り感謝申し上げます。
 さて、このたびは、心温まる寄付金を賜り、東日本大震災よりお心遣いをお寄せいただき、誠にありがとうございます。心よりお礼申し上げます。
 先月9月11日をもって、東日本大震災から第4年と半年が経過いたしました。被災前のような生活に戻り始めている地域と原発事故の影響が長引く次のステップに踏みこんだ地域があり、県内全体の復興を完了するまでにはいたらない状況にあります。
 原発地域の中で避難地域から帰還された町村も増えてきましたが、被災者の多くは被災地域の生活環境が戻らないことから、現在も避難生活を続けており、一部センターにおいては現在も事務所を開設し、復旧の見通しがたてられない状況でございます。このような中、毎年、皆さまから心温まる寄付金をいただき、感謝の気持ちでいっぱいでございます。
 寄付金につきましては被災地域のセンターに対し、皆さまのお気持ちをお届けし、1日も早く元の生活を送ることができるようお役にたてさせていただきたいと考えております。
 高層ながら、寄付金をお寄せくださいますお一人一人の皆さまに深く感謝申し上げますとともに、貴センターの御発展をお祈り申し上げます。お礼にさせていただきます。
 平成27年10月27日
 公益社団法人 福島県シルバー人材センター連合会 会長 御本 常夫
 公益社団法人 小矢部市シルバー人材センター 理事長 末永 九

南双シルバー人材センター、福島県シルバー人材センター連合会から届いたお礼状

互助会だより

会員研修会に参加して

松沢地区 富田昭美

今年の旅行は、十一月五日（木）六日（金）の二日間、姫路城見学、丹波篠山散策と有馬温泉の旅、兵庫県篠山市シルバー人材センター視察研修でした。参加者は男性三十三名、女性十二名の合計四十五名が一台のバスで出発しました。



秋晴れの中、紅葉が少し色づき始めた北陸自動車道、舞鶴若狭自動車道等高速道路を乗り継ぎ、姫路城を目指しました。車中五時間もの長い間どう過ごそうかと思いましたが、旅への期待と開放感で話が花が咲き、大変楽しい車中でした。トイレ休憩のSAへ寄れば、特産品の試食をたのしみ、早くもお土産の段取りをする人も見受けられました。

平成五年に日本初の世界文化遺産に登録され、平成二十一年からの大天守保存修理が終了した姫路城は、青い空に白いお城がそびえ立ち圧巻でした。城をバックに記念写真をとり、門の入り口までガイドさんが案内、後は集合時間まで自由行動でした。平日にもかかわらず観光客が多く、六階の天守まで行くには狭く細い急階段を行列しながら登り大変でしたが、登りきった天

守からの眺めは最高でした。又、ひろばの一角では菊まつりが開かれており、鉢物から盆栽仕立ての物等色々展示してあり、楽しませていただきました。

宿泊先の有馬温泉「有馬グランドホテル」は高台に位置し、温泉の湯の色がレンガ色の浴槽と透明色の浴槽があり、どちらも塩っぱく源泉かけ流し、展望風呂からの夜景は疲れを癒してくれました。又、懇親会では、ビンゴゲーム、カラオケ大会等あり、自慢の「のど」を披露される方や、日頃交流の無い人との会話を楽しみ大変な盛り上がりで宿泊旅行ならではの有意義なひと時でした。

視察研修の篠山市シルバー人材センターでは、両センターの紹介に始まり、事業の内容説明、意見交換が行われ、その中で技能講習会や安全適正就業対策の賜物として、約七〇〇日間の無事故を記録していたと説明があり感心していました。先日小さな事故が発生し記録が途切れてしまったと残念な報告もありました。

その後、平成十二年に復元再建された篠山城大書院の見学に向かいました。大書院では、ボランティアガイドと地元篠山小学校六年生による子供ガイドから、大書院の歴史や襖絵、陳列



品などの説明を開き、昭和十九年に焼失した約四百年前の大書院の姿も想像してみました。篠山小学校では、「篠山の歴史文化を伝える子供ガイド養成講座」の取り組みが三年前から始まり、自分の住む町、郷土の素晴らしさを学ぶ校外授業が行われ、私たちが訪れた日は初めて観光客のガイドをするとの事で、報道関係者がその晴れ姿を撮影しに来ていました。子供たちは六月から練習と準備をしていたそう、よく勉強している事がわかりました。

今回の研修を通して、どこの人材センターも問題を抱えどう対策するか知恵をしばり、努力していると感じました。私達もまた、より良い仕事が出来よう努力をしたいと思えます。今回の企画に尽力された方々には感謝とお礼を申し上げますと共に、多くの会員の皆さんが参加されることを願っております。

「いい経験に」

篠山市立篠山小学校の6年生23人が6日、近くの篠山北新町の篠山城大書院で観光客のガイドを務めた。4年目の取り組みで、分かりやすい説明やガイドブックづくりなど経験が、地元篠山城の良さを発信するのを目指す。児童たちは7月から6日、市販のボランティア観光ガイドグループ「アイスカバーささやま」や一般社団法人「ウズささやま」の人たちから指導を受け、リハーサルなどを重ねてきた。この日、児童たちは4グループに分かれ、篠山城大書院からの観光客6人をガイド。作成したガイド図解を渡し「篠山城は1399年、外様大名を迎えるために徳川家康が建てた」となどと説明し、「徳川の聖徳は何故か?」「狩野絵の描いた絵はどれ?」などのクイズを交えてガイドに挑んだ。

山下道彦(左)は「練習の成果で素晴らしい経験ができた。皆さんがこつこつを向いてくれるようにするのが楽しかった。分かりやすく話すのも難しかったが、いい経験になった」と話していた。(丸井直史)



地元篠山市の新聞に掲載されました。(平成27年11月7日 毎日新聞)

宮島そば打ち体験会に参加して

若林支部 吉村登志子

互助会で八月の下旬「宮島そば打ち道場」でそば打ち体験会をする事が決まり会員の山口善嗣さんのお計らいでそば打ち体験することができました。日も決まり八月二十八日（金）晴天に恵まれ東理事長も参加してくださいました。十五名が集いお楽しみのおそば打ち体験会を行うことができました。楽しい雰囲気の中、各々三班に分かれ、そば粉、小麦粉八対二の割合で配分された粉を綺麗な浅桶で精力こめて練り続ける会員の皆さんがそば打ち初体験で微笑ましい容姿が一段と素敵でした。大きく、薄く、四角に生地を丸棒で伸ばすことに挑戦し楽しく美味しくなれと力を込め練るのですが思うように成らなくて先生と山口さんのアドバイスで切り抜け心弾む楽しい一時でした。出来た生地をたたんで切り太く切ったり細く切ったり大きな包丁に惑わされないように手が力み大きな溜め息がでます。二、三回体験したら少し慣れるかな!! 沸騰した大釜の中へ生麺を入れそば麺が美味しく出来上がった時、感謝、感激の笑顔でした。作りたてのそば麺を美味しい「つゆ」で会食しました。喉もとに麺が滑るように通過して行き手作りの美味しさが、身体に元氣と勇気を与えて貰い楽しい時間を過ごすことができました。



参加された会員の皆さんもさぞかし素晴らしい楽しいそば打ち体験だったと思えます。指導して下さった先生、山口善嗣さん有り難うございました。次回は、「新そば粉」を使って体験が出来たらいいなと思います。皆さんも参加してみませんか!!



